

永田 峰雄 (テノール)
Mineo Nagata, Tenor

新潟県長岡市生まれ。東京芸術大学卒業、同大学院修了。1986年第一回日本モーツァルト・コンクール優勝。1988年と89年、ザルツブルク・ゾンマーアカデミーコンクール優勝とモーツァルトテウム音楽院最優秀賞を連続受賞。1991年アサヒビール芸術文化財団の奨学生として渡欧。

1991年ザルツブルク音楽祭「サティリコン」に出演し、同演目でライブツィヒ歌劇場と客演契約を1992年にかわし、活躍の場をドイツ、ヨーロッパに広げる。1993年ヴェルツブルク歌劇場と専属契約。以後1995年トリーア歌劇場、1996年ギーセン歌劇場、1999年ボン歌劇場、そして2001年からはミュンスター歌劇場専属歌手として大車輪の活躍を見せている。モーツァルト歌手としての様式感ある端正な歌い方と柔軟なベルカント唱法は本場クラシックファンの高い評価を得ている。特に「後宮からの誘拐」(ベルモンテ)は客演を含めて100回以上の公演数を各地で歌い、2002年に歌った「コシ・ファン・トゥッテ」(フェランド)ではセンセーションを巻き起こした。また、ボンとヴェルツブルクで「詩人の恋」と「美しい水車屋の娘」を歌い、オペラ歌手のみならずリート歌手としても高い評価を受ける。地元の新聞批評は「詩人の魂を語る」と激賞した。2003年2004年もデュッセルドルフでユストゥス・フランツ指揮ベートーヴェンの第九交響曲、台北国家交響楽団マーラー・チクルス「大地の歌」、キール歌劇場「アンナ・ボレーナ」(パーシー)など出演、各地で絶賛を博している。さらに、「蝶々夫人」ピンカートン役と「チェネレントラ」王子ラミーロ役が評価され6月にはフォルクスビューネ・ミュンスターから最優秀オペラ歌手として表彰された。

日本では1998年新国立劇場公演「魔笛」(タミーノ)に出演し絶賛された。2000年と2001年には「ラインの黄金」と「ドン・ジョヴァンニ」、2009年に「ラインの黄金」(再演)にも出演、いずれも高い評価を得た。2002年に井上道義指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団とのコンサート・オペラ「ナクソス島のアリアドネ」にバッカス役で出演し、輝かしく力強い歌声で会場を魅了して以来、主要オーケストラとの声楽曲公演に次々と客演している。2003年にはシューマン「詩人の恋」を御前演奏し、別宮貞雄「智恵子抄」とのカップリングによるCDがカメラータ・トウキョウよりリリースされている。

現在オペラのレパートリーとして40以上の役柄をもっているが、おもなものとして「イドメネオ」「ノルマ」「愛の妙薬」「椿姫」「微笑みの国」「こうもり」「ウェルテル」「リゴレット」をこれまでに、ヨーロッパ各地の歌劇場で歌い、客演している日本を代表するテノール歌手。

2007年文化庁芸術祭大賞受賞。
ケルン在住。